

第6回在宅ケア多職種連携活動発表会

日時 平成30年11月16日(金) 午後7時～

会場 ウェルパルクまもと 1階大会議室

会 次 第

○19:00～ 開 会

○19:05～

活動発表(1グループ 15分)

【座長】まつもと在宅クリニック 松本 武敏 先生

	団体名	活動名
1	ざっくばらん会「通称：ばらん会」	ざっくばらん会の活動から ～今後の西地区を盛り上げる～
2	ともにメディカルサポートネットワーク	安心して入退院できるまちづくり ～ともにメディサポの地域連携～
3	熊本市南区多職種連携有志の会 『南来あるサー(なんくるあるサー)』	多職種連携に必要なエチケットや ルール～ エチケット集の育て方～
4	河内・芳野校区在宅療養支援ネットワー ク連絡会	河内・芳野校区在宅療養支援ネット ワーク連絡会の取組み
5	熊本市東区主任ケアマネの会	熊本市東区主任ケアマネの会の取 り組み

○20:30～ 質疑・意見交換

○21:00 閉 会

ざっくばらん会「通称：ばらん会」

1. 活動名

ざっくばらん会の活動から ～今後の西地区を盛り上げる～

2. 団体等について

名称	ざっくばらん会「通称：ばらん会」
代表者	井手 浩信

3. 活動概要

活動歴	2017年（平成29年7月～）
活動のきっかけ	地域リハの実現のためには、我々専門職のひとりよがりではなく、多職種との連携が大事。現在、連携という言葉だけが先行し、西地区においても病院や介護サービス事業所での連携において不十分さが目立つ。今後、地域リハに求められることとして医療・介護の連携と言われているが、地域で診てきた方が入院し再び在宅となった際に、病院と在宅との連携や地域の病院との連携が必要となってくる。実際にどれだけでできているだろうか。「連携」という言葉では難しいが、「連携」を堅苦しく考えるのではなく、ざっくばらんに考えて、ざっくばらんに情報交換や情報共有ができればシームレスな関係作りができるのではないだろうか。まずは西地区の理学療法士から発信していくことで、小さいながらも地域リハの実現が出来ればと思いつち上げに至った。
活動人数	随時異なる
活動目標	地域間の横の繋がりが気軽にでき、また専門職としてのスキルも地域の中で高める。特に若い医療・介護従事者が地域の中で成長し、今後の育成指導を後世まで続けていく。

4. 活動内容

ざっくばらん会（以下ばらん会）が活動を開始して、1年が経過した。今年は勉強会が主な活動だったが、若いスタッフを対象として企画した。実際、セラピストの参加が主であったが実際の講義では、ベテランが若いスタッフへ教える場面も多々あった。またサービス付き高齢者住宅スタッフへ介助指導の依頼があったため、参加可能なメンバー数名で終業後に訪問して実技指導を行った。この活動を通して、西地区での「顔の見える関係」ができて連携がしやすくなってきた。

5. 今後の展望

勉強会等を行いながら、様々な意見を頂くようになってきた。若いセラピスト間での勉強の場を提供してみてもどうか。介助指導の依頼がもっと気軽に受けれる関係になりたい。栄養について知りたいなど。ばらん会活動の柱となる「多職種連携」に向けて、様々な活動を取り組みながら、その中から気軽に「近所の〇〇さん」感覚で話が出来ると西地区を目指していきたい。

ともにメディカルサポートネットワーク

1. 活動名

安心して入退院できるまちづくり ～ともにメディサポの地域連携～

2. 団体等について

名称	ともにメディカルサポートネットワーク
代表者	熊本第一病院 地域連携室 医療ソーシャルワーカー 荒木 圭

3. 活動概要

活動歴	3年（平成27年7月～）
活動のきっかけ	H27.5 在宅療養を支えるためにささえりあ幸田圏域周辺の入院体制をテーマに地域ケア会議を開催。サブアキュートの受入体制や医療連携窓口の役割について意見交換や事例を含めた課題検討の場として月1回の連絡会（ともにメディカルサポートネットワーク）を立ち上げた。
活動人数	約15名
活動目標	地域住民にとってサブアキュート機能が有効活用されることを目的に医療機関相談窓口のネットワークを構築した。現在、在宅関係機関との情報交換を円滑に行うことや、地域住民が安心して地域生活に戻ることが目標に活動している。

4. 活動内容

<p>○定期的な連絡会の開催（毎月第2火曜 16時～17時、会場は各医療機関持ち回り）</p> <ul style="list-style-type: none">・サブアキュートの受け入れ件数、入院受け入れ状況の意見交換。・毎回懸案事項ごとの意見交換。・障がい者相談支援センター、特別養護老人ホーム等の相談員との勉強会、情報交換。・身元保証人または意思決定能力の無い方等への対応に関する意見交換。・介護支援専門員、訪問看護スタッフとの連携強化を目的に退院支援フロー図を作成。・地域住民へ地域連携室の紹介マップを作成。・入退院支援に関する事例検討 <p>○ささえりあ幸田主催による地域ケア会議へ医療機関における課題を提示</p> <p>○空床情報に関するホームページ活用と情報の更新</p> <ul style="list-style-type: none">・メディサポスタッフが所属する医療機関の空床情報、特別養護老人ホームや介護老人保健施設のショートステイ情報を更新。

5. 今後の展望

これまで、ともにメディサポでは入院受け入れにおける連携体制の構築を中心に検討してきた。特に居宅介護支援事業所や医療・介護関係事業所との連携では、地域ケア会議等を活用して連携を図ってきた。一方で地域住民からは「入院してもすぐに帰される」「入院できないことがあるので救急受診しても不安」との声があり、地域住民にとって安心して入退院できるために医療機関としてどのようにしたらよいかとささえりあ幸田との協議の中で課題として掲げた。まずは、各医療機関の相談窓口や業務について地域住民へ啓発する取組みを行うこととした。そして、このことが地域住民との連携となり、スムーズな入退院支援のきっかけになるのではないかと考えている。

また、ともにメディサポのこれまでの活動が他圏域においての参考になればと期待する。

熊本市南区多職種連携有志の会

『南来あるサー（なんくるあるさー）』

1. 活動名

多職種連携に必要なエチケットやルール ～エチケット集の育て方～

2. 団体等について

名称	熊本市南区多職種連携有志の会『南来あるサー（なんくるあるさー）』
代表者	ひまわり在宅クリニック 理事長 後藤慶次

3. 活動概要

活動歴	1年7ヶ月（平成29年3月～）
活動のきっかけ	ご利用者のケアマネジメントをする際に病院やサービス事業所とのネットワークを持ちえなかったので困った事があった為。
活動人数	21名（病院・クリニック・歯科医院・ささえりあ・熊本地域リハ広域支援センター・通所事業所・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・老健施設・福祉用具業者・薬局・行政機関など）
活動目標	熊本市南区市民が地域で安心した医療・介護を受ける事ができるよう、医療関係者、福祉関係者等の連携強化並びに、ささえりあ圏域を越えた関係機関のネットワークを構築し、在宅での生活にかかる課題、解決策を話し合う事を通じ専門性の質を高める為に活動している。

4. 活動内容

多職種が気持ちよく連携できるようにお互いに気をつけることや守るべきこと、ほかの職種に訴えたいこと・求めたいこと等の、連携におけるエチケットやマナー、ルールについて、『多職種連携に必要なエチケットやルール』をテーマとしたワールドカフェ方式の全体研修会を企画。

平成29年度は、6月22日（110名）、10月18日（130名）に開催し、その意見を抽出してより良い多職種連携を図る為の「エチケット集」を作成。平成30年度は、「エチケット集」の周知や見直しのための研修会を平成30年7月12日（100名）、11月（予定）に開催している（研修会開催日の後のカッコ内は参加者数）。

5. 今後の展望

互いの立場や専門性を理解した、よりよい医療・介護連携が図れるように、熊本市南区圏域での全体研修会を開催しエチケット集の浸透を行っていく。今年度から新たに歯科医師も運営メンバーに加わり、エチケット集のバージョンアップや医師・歯科医師・薬剤師など多職種が一同に会し顔の見える関係からお互いの職種を尊重した適切な関係を深める。さらに熊本市南区の医療・介護事業所間のネットワーク構築を促進するために、懇親会等を開催予定。

河内・芳野校区在宅療養支援ネットワーク連絡会

1. 活動名

河内・芳野校区在宅療養支援ネットワーク連絡会の取組み

2. 団体等について

名称	河内・芳野校区在宅療養支援ネットワーク連絡会
代表者	聖ヶ塔病院院長 定永 恒明

3. 活動概要

活動歴	3年（平成27年10月～）
活動のきっかけ	H27年頃より急性期病院より終末期で在宅での看取りを希望される方の紹介が続き在宅医療や看取りを行うために各関係機関が連携していく必要性を感じたため
活動人数	16名
活動目標	河内・芳野校区の住民の皆様が最期まで住み慣れた地域で生活するために在宅医療や介護、在宅での看取りだけでなく病院や施設での看取りについても広報していく。また、医療機関や介護事業所などの関係機関が連携し支援体制を構築していく。

4. 活動内容

H27年10月より圏域内の医療機関、介護事業所で発起会を立ち上げ連絡会の企画や実行を行っている。連絡会は、年1～2回開催し、在宅医療や看取り、ホスピスなどでの事例紹介や事例検討を行っている。参加者は、圏域内だけでなく車で30分圏域の医療機関、介護事業所、民生委員にも呼びかけを行っている。また、年に1回年度末に地域住民に向けて在宅医療や療養生活を広報するための講演会を開催している。

5. 今後の展望

在宅医療や在宅での療養生活、看取りを本人が希望しても実行できない場合もある。講演会や連絡会を通じて在宅医療や療養生活、在宅での看取りについて広報するとともに施設や病院での療養、看取りについても広報し、選択肢であることを地域住民に伝えていく。また、医療と介護、福祉の連携を図り在宅療養支援体制を構築していく。

熊本市東区主任ケアマネの会

1. 活動名

熊本市東区主任ケアマネの会の取り組み

2. 団体等について

名称	熊本市東区主任ケアマネの会
代表者	会長 谷口兼一郎

3. 活動概要

活動歴	8年（平成 22年 10月～）
活動のきっかけ	主任ケアマネに求められている役割を自ら行っていこうとの思いから。
活動人数	49名
活動目標	地域包括ケアシステムの中で、居宅介護支援事業所・地域包括支援センターができる事を取り組んでいきたい。既存の居宅包括連絡会とは違ったことに取り組んでいきたい。

4. 活動内容

- ①多職種連携部：他職種の方達との座談会を通じて顔の見える関係を構築していく。（かかりつけ医・医療連携室・訪問看護と実施）
- ②地域ケア会議推進部：地域ケア会議準備のから始まり、ガイドライン作成及び見直し、自立支援型地域ケア会議研修を行っている。
- ③ケアマネ支援・業務改善部（ケアマネ支援隊）：ケアマネの後方支援を中心に今年度は自立支援型のケアプランについての研修会と居宅巡回を行いよろず相談を実施。
- ④社会資源情報部：地域の社会資源情報発掘としてアンケート及び訪問調査を行っている。今年度は訪問介護事業所を対象にアンケート実施。（施設・通所介護等）

5. 今後の展望

まずは、無理のない会の活動を継続して行く事。それから、各部会の活動を通じて、多岐にわたるケアマネジャー業務の支援、地域資源の構築やネットワーク作りが出来ていければと考えてます。また、ケアマネジャー同士の関係性からお互いの資質向上にも役立てていきたいと思えます。